

2. 学会等における研究発表テーマ調べ（研究所）

研究所長

- 001 **S. Tominaga** : An overview of cancer prevention in Japan. 13th International Symposium of Foundation for Promotion of Cancer Research. Cancer Screening – Past, Present and Future –、2000、(Tokyo)、[Symposium]
- 002 **富永祐民** : ホルモン依存性がんの疫学. 日本癌学会公開シンポジウム「ホルモン依存性がんと核内受容体」、2000、(大宮)、[シンポジウム]
- 003 **富永祐民** : 胃がんの疫学と予防. 第5回 JAPAN GAST Study Group 研究会、2000、(札幌)、[特別講演]
- 004 **富永祐民** : 肺癌の1次予防と2次予防－日本における可能性の推計－. 中日腫瘍学術交流会、2000、(中国、本溪市)、[講演]
- 005 **富永祐民** : 座長 終りに－日本の現状と照らし合わせて－. 第59回日本癌学会、2000、(横浜)、[パネルディスカッション]
- 006 **富永祐民** : 乳がんの1次予防は可能か. 第29回阪南乳腺疾患研究会、2000、(堺)、[特別講演]
- 007 **富永祐民** : 癌の動向：増えた癌、減った癌. 第35回愛知医科大学癌懇話会、2000、(長久手)、[特別講演]
- 008 **富永祐民** : がんの1次・2次化学予防. 第121回日本薬学会シンポジウム「がんは予防できるのか」、2001、(札幌)、[シンポジウム]

疫学・予防部

- 001 **Matsuo, K.¹⁾, Hamajima, N. and Tajima, K.** : Methylenetetrahydrofolate reductase (MTHFR) polymorphisms and life style in malignant lymphoma, The Twentieth International Symposium of the Sapporo Cancer Seminar Foundation、2000、(札幌)、[示説]
- 002 **Hamajima, N.¹⁾, Matsuo, K.¹⁾, Mizutani, M.²⁾, Iwata, H.²⁾, Iwase, T.²⁾, Miura, S.²⁾, Obata, Y.³⁾ and Tajima, K.** : Catechol-O-methyltransferase polymorphism and breast cancer risk in Japan. The Twentieth International Symposium of the Sapporo Cancer Seminar Foundation、2000、(札幌)、[示説]
- 003 **Tajima, K.** : Adult T-cell leukemia/lymphoma in Japan : Epidemiologic pattern and prevention strategy. Asian Cancer Conference in Shizuoka、2000、(Shizuoka)、[パネル]
- 004 **Tajima, K.** : Hospital-based epidemiology. Fouding Conference of the Asian Pacific Organization for Cancer Prevention、2000、(Pattaya, Thailand)、[パネル]
- 005 **Inoue, M.⁴⁾, Tominaga, S.⁴⁾, Tajima, K.⁴⁾, Matsuura, A.⁵⁾ and Nakamura, S.⁶⁾** : Chronic atrophic gastritis and subsequent gastric cancer : prospective cohort study in

Japan. The 22nd Annual Meeting of the International Association of Cancer Registries、2000、(Khon Kaen, Thailand)、[演説]

- 006 **Inoue, M.⁴⁾, Tajima, K. and Tominaga, S.⁴⁾** : Probabilities of developing cancer over the whole life span of a Japanese. The 22nd Annual Meeting of the International Association of Cancer Registries、2000、(Khon Kaen, Thailand)、[演説]
- 007 **Ichinohe, T.⁷⁾, Matsuo, K.¹⁾, Tamaki, S.⁸⁾, Hamajima, N.⁹⁾, Hirabashi, N.⁹⁾ and Dohi, H.¹⁰⁾** : Superior outcome of blood and marrow stem-cell transplantations using maternal grafts over transplants using paternal grafts. The 42th American Society of Hematology Annual Meeting、2000、(San Francisco, USA)、[示説]
- 008 **田島和雄** : 古モンゴロイドの移動：HTLV-Iの分子疫学. 第1回日本がん分子疫学研究会、2000、(東京)、[教育講演]
- 009 **田島和雄** : ATLの民族疫学：南米に渡った古モンゴロイドの病气. 第9回日本組織適合性学会大会、2000、(鹿児島)、[教育講演]
- 010 **浜島信之** : 遺伝子環境交互作用を検討するための研究デザイン. 第23回日本がん疫学研究会、2000、(淡路)、[シンポジウム]
- 011 **浜島信之, 松尾恵太郎¹⁾, 田島和雄, 水谷三浩²⁾, 岩田広治²⁾, 岩瀬拓士²⁾, 三浦重人²⁾, 小幡裕一³⁾** : CYP17の遺伝子多型と乳がんリスク. 第7回日本がん予防研究会、2000、(淡路)、[演説]
- 012 **嶽崎俊郎** : 食物と肺がん. 第46回東海公衆衛生学会、2000、(岐阜)、[シンポジウム]
- 013 **井上真奈美, 田島和雄, 三浦重人²⁾, 浜島信之, 広瀬かおる, 富永祐民⁴⁾** : 緑茶の頻回摂取と乳がん患者の再発との関連. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 014 **浜島信之, 斉藤敏子, 松尾恵太郎¹⁾, 岩田広治²⁾, 岩瀬拓士²⁾, 三浦重人²⁾, 小幡裕一³⁾, 田島和雄** : β 2 adrenergic receptorの遺伝子多型と乳癌リスク. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 015 **松尾恵太郎¹⁾, 浜島信之, 鈴木律郎¹¹⁾, 小椋美知則¹²⁾, 鏡味良豊¹²⁾, 田地浩史¹²⁾, 近藤英生¹²⁾, 朝倉昇二¹²⁾, 森島泰雄¹²⁾, 瀬戸加大¹¹⁾, 田島和雄** : Methylenetetrahydrofolate reductase (MTHFR), methionine synthase 遺伝子多型と悪性リンパ腫. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 016 **広瀬かおる, 田島和雄, 浜島信之, 三浦重人²⁾** : わが国における乳がんの家族歴の有無別に見た危険要因の検討. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 017 **田島和雄** : ヒト腫瘍ウイルスの疫学と今後の展開：民族疫学から. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[パネル]
- 018 **Tajima, K.** : Macro- and micro-geographical distribution of HTLV-I in the world and its prevention strategy. 第59

回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]

- 019 黒石哲生, 広瀬かおる, 鈴木隆一郎¹³⁾, 富永祐民³⁾: 子宮がん検診の有効性の評価. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 020 佐川元保^{14,15)}, 中山富雄¹⁴⁾, 塚田裕子¹⁴⁾, 西井研治¹⁴⁾, 馬場孝¹⁴⁾, 栗田雄三¹⁴⁾, 斉藤泰紀¹⁴⁾, 金子昌弘¹⁴⁾, 曾根脩輔¹⁴⁾, 黒石哲生, 本広昭¹⁴⁾, 鈴木隆一郎¹⁴⁾, 藤村重文^{14, 15)}: 現行の肺癌集検の死亡率減少効果の評価. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 021 中山富雄¹³⁾, 楠洋子¹³⁾, 佐川元保¹⁵⁾, 祖父江友孝¹⁶⁾, 金子昌弘¹⁶⁾, 黒石哲生, 江口研二¹⁷⁾, 藤村重文¹⁵⁾, 鈴木隆一郎¹³⁾: 肺がん検診における低線量らせん CT の効果評価研究. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 022 田島和雄, 広瀬かおる, 井上真奈美, 嶽崎俊郎, 浜島信之, 黒石哲生, 富永祐民⁴⁾: がん専門病院におけるコホート研究, 特に胃がん・乳がんの症例対照研究との比較. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 023 中山富雄¹³⁾, 鈴木隆一郎¹³⁾, 楠洋子¹³⁾, 曾根脩輔¹⁸⁾, 藤村重文¹⁹⁾, 金子昌弘¹⁶⁾, 祖父江友孝¹⁶⁾, 松本徹²⁰⁾, 佐川元保¹⁵⁾, 佐藤雅美¹⁵⁾, 江口研二¹⁷⁾, 黒石哲生: 低線量らせん CT による肺がん検診の有効性評価. 第 41 回日本肺癌学会総会、2000、(東京)、[シンポジウム]
- 024 嶽崎俊郎, 杉浦孝彦²¹⁾, 光富徹哉²²⁾, 谷田部恭²³⁾, 広瀬かおる, 井上真奈美, 浜島信之, 黒石哲生, 田島和雄: 組織型別にみた喫煙習慣以外の肺がんリスク要因; 大規模症例・対照研究より. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 025 黒石哲生: 肺がん検診の現状と展望. 第 78 回中部肺癌学会、2000、(名古屋)、[特別講演]
- 026 黒石哲生, 遠藤登喜子²⁴⁾, 横江隆夫²⁵⁾, 岩瀬拓士²⁾, 大貫幸二²⁶⁾, 小田切邦雄²⁷⁾, 角田博子²⁸⁾, 東野英利子²⁹⁾, 松本満臣³⁰⁾, 大内憲明²⁶⁾, 富永祐民⁴⁾: マンモグラフィ併用検診の精度評価のための検診登録システムの構築. 第 10 回日本乳癌検診学会総会、2000、(仙台)、[示説]
- 027 松尾恵太郎¹⁾, 浜島信之, 森島泰雄¹²⁾, 原田実根³¹⁾: 同種骨髄移植と移植経験数. 第 23 回造血細胞移植学会総会、2000、(京都)、[演説]
- 028 伊藤小百合ルーシー³²⁾, 井上真奈美, 田島和雄, 広瀬かおる, 浜島信之, 嶽崎俊郎, 黒石哲生, 富永祐民⁴⁾: 組織型別にみた胃がんと食習慣との関連. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[示説]
- 029 黄新恩³²⁾, 浜島信之, 斎藤敏子, 松尾恵太郎, 徳留信寛³³⁾, 田島和雄: Possible association of beta-2, beta-3 adrenergic receptor gene polymorphisms with susceptibility to breast cancer. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[示説]
- 030 松尾恵太郎¹⁾, 浜島信之, 井上真奈美, 嶽崎俊郎, 田島和雄: Myeloperoxidase (MPO) 多型と食道がんリスク. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[示説]
- 031 広瀬かおる, 田島和雄, 井上真奈美, 浜島信之, 嶽崎俊郎, 黒石哲生: 乳がんの要因: 症例・対照研究とコホート研究の比較. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[示説]

説]

- 032 井上真奈美, 田島和雄, 富永祐民⁴⁾: ICD-10 導入に伴うがん死亡増加の要因 愛知県がん登録資料を用いた検討. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[演説]
- 033 安藤昌彦³⁴⁾, 若井建志³⁴⁾, 玉腰暁子³⁴⁾, 大野良之³⁴⁾, 浜島信之, 松尾恵太郎¹⁾: CYP2A6 の遺伝子多型と喫煙習慣の関連についての検討. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[示説]
- 034 浜島信之, 松尾恵太郎¹⁾, 斎藤敏子, 田島和雄: がん発生リスクと IL-1 遺伝子多型. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[示説]
- 035 嶽崎俊郎: 中国江蘇省の上部消化管がんの危険要因に関する比較疫学研究. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[演説]
- 036 嶽崎俊郎, 田島和雄: 中国江蘇省の胃がん低リスク地域における胃・食道がんに関する症例・対照研究. 第 11 回日本疫学会学術総会、2001、(つくば)、[示説]

¹⁾ 名古屋大学院生, ²⁾ 乳腺外科, ³⁾ 腫瘍免疫学部, ⁴⁾ 所長, ⁵⁾ 消化器内科, ⁶⁾ 遺伝子病理診断部, ⁷⁾ 京都大学, ⁸⁾ 山田赤十字病院, ⁹⁾ 名古屋第二日赤病院, ¹⁰⁾ 広島原爆赤十字病院, ¹¹⁾ 遺伝子医療研究部, ¹²⁾ 血液化学療法部, ¹³⁾ 大阪成人病センター, ¹⁴⁾ 厚生省藤村班, ¹⁵⁾ 東北大学加齢医学研, ¹⁶⁾ 国立がんセンター, ¹⁷⁾ 国立四国がんセンター, ¹⁸⁾ JA 厚生連安曇総合病院, ¹⁹⁾ 東北厚生年金病院, ²⁰⁾ 放医研, ²¹⁾ 呼吸器内科, ²²⁾ 胸部外科, ²³⁾ 臨床検査部, ²⁴⁾ 国立名古屋病院, ²⁵⁾ 群馬大学, ²⁶⁾ 東北大学医, ²⁷⁾ 横浜青葉台クリニック, ²⁸⁾ 都立府中病院, ²⁹⁾ 筑波大学, ³⁰⁾ 都立保健科学大, ³¹⁾ 岡山大学, ³²⁾ 研修生, ³³⁾ 名古屋市立大学, ³⁴⁾ 名古屋大学

腫瘍病理学部

- 001 池原譲, 小島直也¹⁾, 西原祥子²⁾, 辻崇一³⁾, 成松久²⁾, 立松正衛: 胃癌の腫瘍マーカー CA72. 4 (STn 抗原) を合成するシアル酸転移酵素 (human ST6GaINAc 1) 遺伝子のクローニングと発現. 第 89 回日本病理学会総会、2000、(大阪)、[ワークショップ]
- 002 中西速夫, 伊藤誠二⁴⁾⁵⁾, 池原譲, 稲田健一, 塚本徹哉, 立松正衛: GFP 遺伝子導入ラット舌扁平上皮癌細胞株を用いた血行性転移過程のリアルタイム解析. 第 89 回日本病理学会総会、2000、(大阪)、[口演]
- 003 塚本徹哉, 深見博子, 山中正二⁶⁾, 中西速夫, 青木一郎⁶⁾, 立松正衛: 1, 2-dimethylhydrazine 誘発ラット大腸 aberrant crypt foci の hexosaminidase 染色性とその遺伝子発現. 第 89 回日本病理学会総会、2000、(大阪)、[口演]
- 004 安富久記⁴⁾⁷⁾, 稲田健一, 中西速夫, 塚本徹哉, 中村栄男⁸⁾, 小柳泰久⁷⁾, 立松正衛: 腸上皮化生腸管における内分泌細胞の分化. 第 89 回日本病理学会総会、2000、(大阪)、[示説]
- 005 田中晴就, 稲田健一, 中西速夫, 塚本徹哉, 池原譲, 深見博子, 中村栄男⁸⁾, 立松正衛: in situ hybridization 法を用いた腸上皮化生腺管の細胞動態の解析. 第 89 回日本病理学会総会、2000、(大阪)、[示説]

- 006 稲田健一, 田中晴就, 中西速夫, 塚本徹哉, 池原譲, 中村栄男⁹⁾, 立松正衛: 抗パネート細胞抗体を用いた胃腸混合型腸上皮化生におけるパネート細胞の検出とその意義. 第 89 回日本病理学会総会、2000、(大阪)、[示説]
- 007 野崎浩二^{4) 9)}, 清水伸幸⁹⁾, 稲田健一, 池原譲, 中西速夫, 塚本徹哉, 上西紀夫⁹⁾, 立松正衛: *Helicobacter pylori* 感染スナネズミモデルにおける粘膜下増殖巣の腸型化. 第 89 回日本病理学会総会、2000、(大阪)、[示説]
- 008 深見博子, 塚本徹哉, 稲田健一, 中西速夫, 池原譲, 立松正衛: p53 knockout mouse における大腸 ACF と腫瘍発生. 第 89 回日本病理学会総会、2000、(大阪)、[示説]
- 009 塚本徹哉, 山本昌美, 野崎浩二⁴⁾⁹⁾, 中西速夫, 立松正衛: 1, 2-dimethylhydrazine 誘発ラット大腸分離 aberrant crypt の hexosaminidase 染色性と α および β subunit mRNA の発現低下. 第 11 回日本消化器癌発生学会総会、2000、(米子)、[ワークショップ]
- 010 山本昌美, 塚本徹哉, 野崎浩二⁴⁾⁹⁾, 立松正衛: p53 knockout マウス MNU 腺胃発癌過程における p53 遺伝子の役割. 第 11 回日本消化器癌発生学会総会、2000、(米子)、[口演]
- 011 野崎浩二^{4) 9)}, 清水伸幸⁹⁾, 池原譲, 稲田健一, 塚本徹哉, 杉山敦¹⁰⁾, 上西紀夫⁹⁾, 立松正衛: *Helicobacter pylori* 感染スナネズミモデルにおける除菌の効果. 第 11 回日本消化器癌発生学会総会、2000、(米子)、[ラウンドテーブルディスカッション]
- 012 中西速夫, 伊藤誠二^{4) 5)}, 池原譲, 立松正衛: GFP (green fluorescent protein) 遺伝子導入ラット舌癌細胞株を用いた血行性転移過程のリアルタイム解析. 第 9 回がん転移研究会総会、2000、(大阪)、[ワークショップ]
- 013 清水伸幸⁹⁾, 野崎浩二^{4) 9)}, 池原譲, 稲田健一, 中西速夫, 上西紀夫⁹⁾, 杉山敦¹⁰⁾, 立松正衛: *Helicobacter pylori* 感染スナネズミ腺胃発癌モデルにおける胃癌の細胞分化. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 014 野崎浩二^{4) 9)}, 清水伸幸⁹⁾, 池原譲, 稲田健一, 塚本徹哉, 杉山敦¹⁰⁾, 上西紀夫⁹⁾, 立松正衛: *Helicobacter pylori* 感染スナネズミモデルにおける腫瘍病変の Hp 除菌による消退効果. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 015 立松正衛: がん予防と動物実験. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[パネルディスカッション]
- 016 中西速夫, 小寺泰弘¹¹⁾, 井上貴博¹²⁾, 山村義孝¹¹⁾, 杉村芳樹¹²⁾, 立松正衛: リアルタイム RT-PCR 法を用いた胃腸腹腔洗浄液中および尿中癌細胞の迅速定量法の臨床的意義. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 017 吉田幸成^{13) 14)}, 稲田健一, 八木由紀子¹³⁾, 立松正衛, 杉村隆¹³⁾, 今井浩三¹⁴⁾, 牛島俊和¹³⁾: 胃の腸上皮化生における integrin $\alpha 6$ の脱メチル化と異常な発現. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 018 飯高健^{4) 15)}, 白井紀充^{4) 15)}, 酒井洋樹^{4) 15)}, 塚本徹哉, 山本昌美, 戸塚ゆ加里¹⁶⁾, 若林敬二¹⁶⁾, 立松正衛: イニシエーション活性中期検索法における Aminophenylnorharman のイニシエーション活性. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 019 田中あづさ^{4) 17)}, 伊藤誠二^{4) 5)}, 中西速夫, 塚本佳孝^{4) 17)}, 加藤知行¹¹⁾, 立松恵子¹⁸⁾, 立松正衛: リアルタイム RT-PCR 法を用いた大腸癌の周術期末梢血中癌細胞の定量. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 020 東出香二¹⁹⁾, 三澤俊哉¹⁹⁾, 池原譲: 妊婦における CA72-4 偽陽性の解析. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 021 鰐淵英機²⁰⁾, 大谷周造²⁰⁾, 津田洋幸²¹⁾, 若林敬二¹⁶⁾, 今井田克巳²²⁾, 白井智之²²⁾, 中江大²³⁾, 小西陽一²³⁾, 立松正衛, 福島昭治²⁰⁾: 環境発がん物質の低容量肝発がんリスク. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 022 山本昌美, 塚本徹哉, 深見博子, 酒井洋樹⁴⁾¹⁵⁾, 中西速夫, 立松正衛: p53 ノックアウトマウスにおける Aberrant crypt foci (ACF) と腫瘍の発生頻度の非相関. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 023 塚本徹哉, 深見博子, 安富久記⁴⁾⁷⁾, 山中正二⁶⁾, 中西速夫, 青木一郎⁶⁾, 立松正衛: DMH 誘発ラット大腸分離 aberrant crypt の hexosaminidase mRNA の発現低下. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 024 竹内基^{24) 25)}, 降旗千恵^{24) 26)}, 山本昌美, 立松正衛, 三木一正²⁵⁾, 榊佳之²⁴⁾: MNNG 2 週間投与でラット胃幽門腺部粘膜の osteonectin 発現は増加するが、NaCl 投与では増加しない. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 025 曹雪源⁴⁾⁹⁾, 野崎浩二⁴⁾⁹⁾, 中西速夫, 清水伸幸⁹⁾, 上西紀夫⁹⁾, 杉山敦¹⁰⁾, 立松正衛: *Helicobacter pylori* 感染スナネズミモデルにおける除菌による Apoptosis の誘導. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 026 田中晴就, 稲田健一, 塚本徹哉, 溝下勤⁴⁾²⁷⁾, 田中あづさ^{4) 17)}, 小寺泰弘¹¹⁾, 山村義孝¹¹⁾, 中村栄男⁸⁾, 立松正衛: 腸上皮化生におけるホメオボックス遺伝子 Cdx1, Cdx2 の発現. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 027 溝下勤⁴⁾²⁷⁾, 稲田健一, 田中晴就, 山村義孝¹¹⁾, 小寺泰弘¹¹⁾, 立松恵子¹⁸⁾, 城卓志²⁷⁾, 伊藤誠²⁷⁾, 立松正衛: 腸型ヒト胃癌におけるホメオボックス遺伝子 Cdx1, Cdx2 の発現. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 028 安富久記^{4) 7)}, 池原譲, 西原祥子²⁾, 篠田雅幸²⁸⁾, 波戸岡俊三²⁸⁾, 長谷川泰久²⁹⁾, 佐々木克敏³⁰⁾, 設楽研也³⁰⁾, 成松久²⁾, 立松正衛: ヒトシアル酸転移酵素 ST3Gal IV に対する特異的モノクローナル抗体 (KM1652) を用いた食道扁平上皮癌における発癌について. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 029 池原譲, 西原祥子²⁾, 安富久記^{4) 7)}, 小寺泰弘¹¹⁾, 佐々木克敏³⁰⁾, 設楽研也³⁰⁾, 成松久²⁾, 立松正衛: ヒトシアル酸転移酵素 ST3Gal IV に対する特異的モノクローナル抗体 (KM1652) の樹立と血清 CA19. 9 高値を示す胃ガンに発現について. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 030 稲田健一³¹⁾, 伊藤勝基^{5) 31)}, 加藤知行^{11) 31)}, 中里博昭^{31) 32)}, 水野勇³¹⁾, 金光泰石³¹⁾, 杉山保幸³¹⁾, 松本好市³¹⁾, 山口晃弘³¹⁾, 中井勝彦³¹⁾, 立松正衛: 大腸癌における予後規定因子としての Tymidylate Synthase (TS) 発現の意義. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 031 杉山敦¹⁰⁾, 川崎誠治¹⁰⁾, 勝山努³³⁾, 立松正衛: *Helicobacter pylori* (Hp) 感染症と胃発癌. 第 59 回日本癌学会総会、2000、

- (横浜)、[シンポジウム]
- 032 立松正衛, 清水伸幸⁹⁾, 野崎浩二^{4) 9)}, 杉山敦¹⁰⁾: 化学発がん物質誘導スナネズミ実験胃癌の *Helicobacter pylori* 感染による促進. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 033 白井紀充^{4) 15)}, 塚本徹哉, 山本昌美, 酒井洋樹^{4) 15)}, 田中晴就, 立松正衛: p53 ノックアウトマウスの AMN 誘発食道癌の高感受性. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 034 酒井洋樹^{4) 15)}, 塚本徹哉, 山本昌美, 白井紀充^{4) 15)}, 立松正衛: p53 knockout(KO)マウスにおける 1, 2-dimethylhydrazine に対する大腸発がん感受性. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 035 平山喜一¹³⁾, 庫本高志¹³⁾, 北野元生³⁴⁾, 立松正衛, 杉村隆¹³⁾, 牛島俊和¹³⁾: MNNG 誘発ラット胃癌において過剰にまたは過小にメチル化される DNA 断片の同定. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 036 伊藤誠二^{4) 5)}, 中西速夫, 池原譲, 笠井保志⁵⁾, 秋山清次⁵⁾, 伊藤勝基⁵⁾, 中尾昭公⁵⁾, 立松正衛: Green fluorescent protein (GFP) 遺伝子導入ラット舌癌転移性細胞を用いた転移過程のリアルタイム解析. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 037 竹下文隆²²⁾, 小川久美子²²⁾, 二口充²²⁾, 中西速夫, 朝元誠人²²⁾, 立松正衛, 白井智之²²⁾: ラット肝細胞癌自然肺転移モデル由来細胞株を用いた転移関連遺伝子の検索. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 038 酒井洋樹^{4) 15)}, 平田暁大¹⁵⁾, 稲上敦士¹⁵⁾, 山本昌美, 塚本徹哉, 立松正衛, 柳井徳磨¹⁵⁾, 棚木利昭¹⁵⁾: 肝部分切除(PH)によるイニシエーション活性検索法におけるイニシエーションの成立と肝 P450 の動態及び細胞増殖動態との関係. 第 130 回日本獣医学会学術集会、2000、(大阪)、[示説]
- 039 酒井洋樹^{4) 15)}, 稲上敦士¹⁵⁾, 平田暁大¹⁵⁾, 山本昌美, 塚本徹哉, 立松正衛, 柳井徳磨¹⁵⁾, 棚木利昭¹⁵⁾: イニシエーション活性検索法におけるイニシエーション活性の加算効果. 第 130 回日本獣医学会学術集会、2000、(大阪)、[示説]
- 040 山本昌美, 塚本徹哉, 酒井洋樹^{4) 15)}, 柳井徳磨¹⁵⁾, 棚木利昭¹⁵⁾, 立松正衛: P53 ノックアウトマウスにおける Aberrant crypt foci (ACF) と腫瘍の発生頻度の非相関. 第 130 回日本獣医学会学術集会、2000、(大阪)、[示説]
- 041 Tsukamoto, T. , Fukami, H. , Yasutomi, H. ^{4) 7)}, Yamanaka, S. ⁶⁾, Nakanishi, H. , Aoki, I. ⁶⁾ and Tatematsu, M. : Transcriptional Down Regulation of Hexosaminidase Alpha and Beta Subunits in Aberrant Crypts in the 1, 2-Dimethylhydrazine Treated Rat Colon. XIII International Congress International Academy of Pathology, 2000、(名古屋)、[ポスター]
- 042 Nakanishi, H. , Ito, S. ^{4) 5)} and Tatematsu, M. : Sequential Observation of Peritoneal Micrometastasis Formation by LacZ Gene and GFP Gene-Tagged Murine Carcinoma Cells. XIII International Congress International Academy of Pathology, 2000、(名古屋)、[口演]
- 043 Ikehara, Y. , Kojima, N. ¹⁾, Kurosawa, N. ³⁾,

- Kono, M. ³⁾, Nishihara, S. ²⁾, Itzkowitz, S. H. ³⁵⁾, Tatematsu, M. , Tsuji, S. ³⁾ and Narimatsu, H. ²⁾: Cloning and Expression of the Probable Candidate for the Cancer Associated Sialyl-Tn Antigen Synthase (Human ST 6 GalNAcI). XIII International Congress International Academy of Pathology, 2000、(名古屋)、[口演]
- 044 Inada, K. , Tanaka, H. , Nakanishi, H. , Tsukamoto, T. , Ikehara, Y. , Tatematsu, K. ¹⁸⁾, Nakamura, S. ⁸⁾, Porter, E. M. ³⁶⁾ and Tatematsu, M. : Identification of Paneth Cells in Pyloric Glands Associated with Gastric and Intestinal Mixed Type Intestinal Metaplasia of the Human Stomach. XIII International Congress International Academy of Pathology, 2000、(名古屋)、[ポスター]
- 045 白井紀充^{4) 15)}, 塚本徹哉, 山本昌美, 飯高健^{4) 15)}, 酒井洋樹^{4) 15)}, 立松正衛: p53 ノックアウトマウスの AMN 誘発食道癌の高感受性. 第 17 回日本毒性病理学会、2000、(名古屋)、[示説]
- 046 塚本徹哉, 山本昌美, 酒井洋樹^{4) 15)}, 田中晴就, 白井紀充^{4) 15)}, 小林潔^{4) 37)}, 立松正衛: p53 knockout mouse における大腸 aberrant crypt foci と腫瘍の発生頻度の非相関. 第 17 回日本毒性病理学会、2000、(名古屋)、[示説]
- 047 田中晴就, 野崎浩二^{4) 9)}, 塚本徹哉, 今井俊夫^{4) 38)}, 立松正衛: *Helicobacter pylori* (HP) 感染スナネズミ胃粘膜に生じる腫瘍様病変とその Hp 除菌による変化. 第 17 回日本毒性病理学会、2000、(名古屋)、[示説]
- 048 山本昌美, 塚本徹哉, 細川昌則³⁹⁾, 飯高健^{6) 15)}, 湯浅啓史^{4) 40)}, 立松正衛: 老化促進モデルマウス (SAM) P3 における N-methyl-N-nitrosourea 誘発胃癌. 第 17 回日本毒性病理学会、2000、(名古屋)、[示説]
- 049 酒井洋樹^{4) 15)}, 平田暁大¹⁵⁾, 稲上敦士¹⁵⁾, 山本昌美, 塚本徹哉, 柳井徳磨¹⁵⁾, 立松正衛: イニシエーション活性検索法における標的臓器の異なる化学物質間のイニシエーション活性の加算効果の検討. 第 17 回日本毒性病理学会、2000、(名古屋)、[示説]
- 050 Tsukamoto, T. , Inada, K. , Fukami, H. , Yamamoto, M. , Tanaka, H. , Kusakabe, M. ⁴¹⁾ and Bishop, C. E. ⁴²⁾, Tatematsu, M. : Mouse Stain Susceptibility to Diethylnitrosamine Induced Hepatocarcinogenesis is Cell Autonomous Whereas Sex-Susceptibility is due to the Micro-Environment. Molecular biology and new therapeutic strategies, 2001、(ハワイ)、[口演]
051. 中西速夫, 小寺泰弘¹¹⁾, 山村義孝¹¹⁾, 伊藤誠二^{4) 5)}, 立松正衛: リアルタイム RT-PCR 法を用いた胃癌腹腔洗浄液中癌細胞の定量的検出法の臨床的意義. 第 73 回日本胃癌学会総会、2001、(金沢)、[シンポジウム]

¹⁾東海大・工・工業化学, ²⁾創価大・生命研・細胞生物, ³⁾理研・フロンティア・糖遺伝情報, ⁴⁾研修生, ⁵⁾名大・医・2 外, ⁶⁾横浜市大・医・2 病, ⁷⁾東京医大・3 外, ⁸⁾病院・遺伝子病理診断, ⁹⁾東大・医・消外, ¹⁰⁾信州大・医・1 外, ¹¹⁾病院・消外, ¹²⁾病院・泌, ¹³⁾国立がんセンター・研・発がん, ¹⁴⁾札幌医大・医・1 内,

¹⁵⁾ 岐大・農・家畜病理, ¹⁶⁾ 国立がんセ・研・がん予防, ¹⁷⁾ 愛知学院大・歯・1口外, ¹⁸⁾ 名古屋記念・内, ¹⁹⁾ 知多市民・産, ²⁰⁾ 大阪市大・院・都市環境病理, ²¹⁾ 国立がんセ・研・化学療法, ²²⁾ 名市大・医・1病, ²³⁾ 奈良医大・腫瘍病理, ²⁴⁾ 東大医科研・ヒトゲノム, ²⁵⁾ 東邦大・医・1内, ²⁶⁾ 青山学院大・理工, ²⁷⁾ 名市大・医・1内, ²⁸⁾ 病院・胸外, ²⁹⁾ 病院・頭頸外, ³⁰⁾ 協和発酵・東京研, ³¹⁾ 東海大腸癌補助化学療法研究会, ³²⁾ 横山胃腸科, ³³⁾ 信州大・医・臨床検査, ³⁴⁾ 鹿児島大・歯・病理, ³⁵⁾ Div. of Gastroenterology, Mount Sinai Medical Center, USA, ³⁶⁾ Div. of Pulmonary and Critical Care, Dept. of Medicine, Univ. of California, USA, ³⁷⁾ 三菱東京製薬・安全研, ³⁸⁾ エーザイ・安全研, ³⁹⁾ 京大・再生医科学研・再生制御, ⁴⁰⁾ 田辺製薬・安全研, ⁴¹⁾ 理研・筑波セ・実験動物, ⁴²⁾ Dept. of Obstetrics and Gynecology and Molecular and Human Genetics, Baylor College of Medicine, Houston, USA

分子腫瘍学部

- 001 **T. Takahashi**, **N. Haruki**, **K. Kozaki**, **T. Harano**, **A. Masuda**, **H. Konishi**, **T. Hida**¹⁾, **Y. Tatematsu**, **H. Saito**, **Y. Yatabe**²⁾, **K. Yanagisawa**, **K. Yoshida**¹⁾, **T. Mitsudomi**³⁾ and **H. Osada**: Multidirectional approach for studies on the carcinogenesis and progression of human lung cancers. 国際肺癌学会、2000、(東京)、[シンポジウム]
- 002 **T. Takahashi**: Altered cell cycle control in human lung cancer. Symposium on cell cycle control and lung cancer, 2000、(中国、香港)、[招請講演]
- 003 **T. Takahashi**: Smoking behavior and its consequences in the pathogenesis of lung cancer. 日米がん協力事業セミナー、2001、(米国、マウイ)、[セミナー]
- 004 **N. Haruki**, **T. Harano**, **A. Masuda**, **T. Kiyono**⁴⁾, **Y. Tatematsu**, **S. Shimizu**³⁾, **T. Mitsudomi**³⁾, **H. Konishi**, **H. Osada**, **Y. Fujii**⁵⁾ and **T. Takahashi**¹⁾: Persistent increase of chromosome instability in lung cancer: possible indirect involvement of p53 inactivation. 米国癌学会-日本癌学会合同癌会議、2000、(米国、マウイ)、[ポスター]
- 005 奥寺康司⁶⁾, 伊藤隆明⁶⁾, 矢澤卓也⁶⁾, 林宏行⁶⁾, 増田彰, 高橋隆, 北村均⁶⁾: ヒト気管支上皮細胞アポトーシス誘導時におけるp27kip1 減少の機序とその意義. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 006 平松靖史⁷⁾, 山根弘路⁸⁾, 木浦勝行⁷⁾, 土田眞⁷⁾, 野上尚之⁹⁾, 元田欽也⁷⁾, 平木章夫⁷⁾, 瀧川奈義夫⁷⁾, 上岡博⁷⁾, 渋谷彰¹⁰⁾, 高橋隆, 原田実根⁷⁾: ヒト肺小細胞癌細胞株におけるNK cell receptor DNAM-1 ligand の発現の検討. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 007 増田彰, 高橋隆: ヒト肺がんにおけるチェックポイント異常と染色体不安定性. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 008 樋田豊明¹⁾, 小崎健一, 村松秀樹¹⁾, 伊藤秀美¹⁾, 小川一誠

¹¹⁾, 杉浦孝彦¹⁾, 高橋隆: 肺癌における cyclooxygenase2 の過剰発現と特異的阻害剤の臨床応用についての検討. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ミニシンポジウム]

- 009 清水重喜³⁾, 野本周嗣¹²⁾, 柴本忠昭¹³⁾, 上田龍三¹⁴⁾, 高橋隆, 光富徹哉³⁾: 肺癌における p53 腫瘍抑制遺伝子の転写機能評価の臨床的意義. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 010 春木伸裕, 斉藤寛子, 立松義朗, 小西裕之, 原野知子, 増田彰, 長田啓隆, 藤井義敬⁵⁾, 高橋隆: ヒト肺癌における CHK1 及び CHK2 遺伝子変異の検索. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ミニシンポジウム]
- 011 長田啓隆, 柳澤聖, 増田彰, 立松義朗, 高橋隆: 肺癌における TGF- β II 型受容体発現消失機構の検討. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 012 小崎健一, 宮石理¹⁵⁾, 立松義朗, 越川克己, 長田啓隆, 高橋隆: ヒト肺癌細胞株自然転移モデルを用いた転移関連遺伝子群の解析. 第59回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 013 清水重喜³⁾, 波戸岡俊三³⁾, 篠田雅幸³⁾, 陶山元一³⁾, 上田龍三¹⁴⁾, 柴本忠昭¹²⁾, 高橋隆, 光富徹哉³⁾: 肺癌における p53 腫瘍抑制遺伝子の転写機能評価の臨床的意義. 第41回日本肺癌学会総会、2000、(東京)、[口演]
- 014 吉田公秀¹⁾, 浜島信之¹⁶⁾, 小崎健一, 斉藤寛子, 前野健¹⁾, 杉浦孝彦¹⁾, 大熊攻²⁾, 高橋隆: ドーパミン D2 受容体 (DRD2) 遺伝子多型と喫煙. 第41回日本肺癌学会総会、2000、(東京)、[口演]
- 015 田嶋公平³⁾, 小幡裕一¹⁷⁾, 高橋利忠¹⁷⁾, 桑野博行¹⁸⁾, 福井高幸³⁾, 川崎徳仁³⁾, 波戸岡俊三³⁾, 篠田雅幸³⁾, 陶山元一³⁾, 高橋隆, 光富徹哉³⁾: 肺癌における Cancer / Testis (CT) 抗原の発現の検討. 第41回日本肺癌学会総会、2000、(東京)、[口演]

¹⁾ 病・呼吸器, ²⁾ 病・臨床検査, ³⁾ 病・胸外, ⁴⁾ 研・ウイルス, ⁵⁾ 名市大・2外, ⁶⁾ 横浜市大・医・病理, ⁷⁾ 岡山大・医・2内, ⁸⁾ 住友別子病院, ⁹⁾ 神戸西市民病院, ¹⁰⁾ 筑波大・基礎医, ¹¹⁾ 総長, ¹²⁾ 名大・医・2外, ¹³⁾ 名市大・医・2病, ¹⁴⁾ 名市大・医・2内, ¹⁵⁾ 長寿研・老化・病理, ¹⁶⁾ 研・疫学, ¹⁷⁾ 研・免疫, ¹⁸⁾ 群馬大・医・1外

遺伝子医療研究部

[学会発表]

- 001 **Yonezumi, M.**, **Takahashi, H.**, **Suzuki, H.**, **Suzuki, R.**, **Hosokawa, Y.**, **Morishima, Y.**¹⁾, **Nakamura, S.**²⁾ and **Seto, M.**: Molecular characterization of API2-MALT1 chimeric product involved in mucosa-associated lymphoid tissue lymphoma. American Society of Hematology. Blood 96 (supple. 1): 87a, 2000、(San Francisco, USA)、[poster]
- 002 瀬戸加大: 悪性リンパ腫発症関連遺伝子の解析とその臨床応用. 第25回東海遺伝子研究会、2000、(名古屋)、[招請

講演]

- 003 細川好孝, 瀬戸加大: 染色体転座による B 細胞性腫瘍発症機構. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 004 米積昌克, 高橋英伸, 鈴木律朗, 細川好孝, 森島泰雄¹⁾, 中村栄男²⁾, 瀬戸加大: MALT リンパ腫における API2-MALT 1 遺伝子異常の解析. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[口演]
- 005 鈴木律朗, 竹村一男³⁾, 堤正好³⁾, 森島泰雄¹⁾, 中村栄男²⁾, 瀬戸加大: Real time PCR 法を用いたマントル細胞リンパ腫の診断. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 006 瀬戸加大, 中村栄男²⁾: 悪性リンパ腫の個性に基いた診断・治療: 分子疾患単位を認識することの意義. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 007 嶋本隆司⁴⁾: 大屋敷一馬⁴⁾, 矢口誠⁴⁾, 石田良司, 友田アキ夫¹⁾: ヒト白血病における Phx の抗腫瘍効果の分子機構. 第 73 回日本生化学会大会、2000、(横浜)、[示説]
- 008 田嶋優子⁵⁾, 伊丹千佐子⁵⁾, 上野由香⁵⁾, 石田良司, 田口良⁶⁾, 池沢宏郎⁶⁾, 中林利克⁵⁾: 各種 HeLa 細胞に存在する GPI-アンカー蛋白質の解析. 第 121 回日本薬学会年会、2001、(札幌)、[示説]
- 009 細川好孝, 前田由美子, 瀬戸加大: リンパ球分化支配遺伝子イカロスの関与する染色体転座. 第 73 回日本生化学会大会、2000、(横浜)、[示説]
- 010 細川好孝: MALT リンパ腫の分子的基盤. 第 2 回分子血液研究会、2000、(名古屋)、[口演]

¹⁾ 血液化学療法部, ²⁾ 遺伝子病理診断部, ³⁾ ㈱エスアールエル,
⁴⁾ 東京医大, ⁵⁾ 武庫川女子大, ⁶⁾ 名市大

腫瘍免疫学部

- 001 Akatsuka, Y., Brickner, A. G.¹⁾, Warren, E. H.²⁾, Caldwell, J. A.¹⁾, Engelhard, V. H.¹⁾ and Riddell, S. R.²⁾: HLA-A*0201 拘束性 CTL により認識される新規のマイナー組織適合抗原をコードする遺伝子の同定とその抗原性発現のメカニズム. 第 4 回基盤的癌免疫研究会、2000、(札幌)、[口演]
- 002 Akatsuka, Y., Warren, E. H.²⁾, Brickner, A. G.¹⁾, Lin, M.-T.²⁾, Gooly, T.²⁾, Martin, P. J.²⁾, Hansen, J. A.²⁾, Engelhard, V. H.¹⁾ and Riddell, S. R.²⁾: Effect of disparity in the newly identified minor histocompatibility antigen SKH13 on the development of graft-versus-host disease after marrow transplantation. The 42nd American Society of Hematology meeting、2000、(Los Angeles)、[示説]
- 003 Ito, Y.³⁾, Emi, N.⁴⁾, Abe, A.⁴⁾, Saito, H.⁴⁾, Tsujimura, K., Sumi, Y.³⁾, Hata, K.³⁾ and Ueda, M.³⁾: DNA vaccination using Herios Gene Gun in the murine tumor model. The 6th Annual Meeting of the Japan Society of Gene Therapy、2000、(東京)、[示説]

- 004 Kobayashi, Y.⁵⁾, Ohtsuka, K., Hata, M.⁶⁾ and Sobue, G.⁵⁾: Inhibition of aggregate formation of mutant androgen receptor by molecular chaperones. CSH Meeting on Molecular Chaperones & the Heat Shock Response、2000、(Cold Spring arbor Laboratory, New York)、[示説]
- 005 Ohtsuka, K.: Cytoprotective function of molecular chaperones, Hsp70 and Hsp40. The 8th International Congress of Hyperthermic Oncology、2000、(Kyong-Ju, Korea)、[シンポジウム]
- 006 赤塚美樹: 新規に同定された HLA-A*0201 拘束性 CTL により認識されるマイナー組織適合抗原遺伝子とその臨床的意義. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ミニシンポジウム]
- 007 伊藤優子³⁾, 恵美宣彦⁴⁾, 安部明弘⁴⁾, 斉藤英彦⁴⁾, 直江知樹⁷⁾, 清井仁⁷⁾, 辻村邦夫, 高橋利忠, 畠賢一郎³⁾, 上田実³⁾: Helios Gene Gun (BIO-RAD) を用いた遺伝子ワクチンの検討. 第 24 回東海遺伝子医療研究会、2000、(浜松)、[口演]
- 008 岩瀬 秀⁸⁾, 小幡裕一, 辻村邦夫, 松平康枝, 尾関 聡, 吉川和宏⁹⁾, 佐賀信介⁹⁾, 高橋利忠: T3^b-TL tetramer による TL 拘束性 CTL 前駆細胞数の解析. 第 30 回日本免疫学会総会、2000、(仙台)、[口演]
- 009 大塚健三: ハイパーサーミアの分子生物学: 分子シャペロンの医学への応用. 日本ハイパーサーミア学会第 17 回大会、2000、(新潟)、[教育講演]
- 010 大塚健三, 秦真美⁹⁾: 分子シャペロンによる変異蛋白質の機能回復の試み. 第 3 回癌治療増感研究シンポジウム、2001、(奈良)、[シンポジウム]
- 011 島村道夫¹⁰⁾, 三浦(大沼)純¹⁰⁾, 高橋利忠, 小幡裕一: CD 1 以外の MHC クラス I 様分子依存的に発生する NKT 細胞の性質. 第 30 回日本免疫学会総会、2000、(仙台)、[口演]
- 012 辻村邦夫: マウス TL 抗原を標的とした免疫療法の基礎的検索: T3^b-TL tetramer を用いた解析. 第 2 回血液フォーラム 21、2000、(京都)、[口演]
- 013 辻村邦夫, 小幡裕一, 岩瀬秀⁸⁾, 松平康枝, 尾関聡, 吉川和宏⁹⁾, 佐賀信介⁹⁾, 高橋利忠: マウス TL 抗原をモデルとした免疫療法: T3^b-TL tetramer を用いた解析. 第 4 回基盤的癌免疫研究会総会、2000、(札幌)、[シンポジウム]
- 014 辻村邦夫, 小幡裕一, 岩瀬秀⁸⁾, 松平康枝, 尾関聡, 吉川和宏⁹⁾, 佐賀信介⁹⁾, 高橋利忠: T3^b-TL tetramer による TL 拘束性 CTL の解析. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]

¹⁾ Virginia 大, ²⁾ Fred Hutchinson 癌研, ³⁾ 名大・医・口腔外科,
⁴⁾ 名大・医・第一内科, ⁵⁾ 名大・医・神経内科, ⁶⁾ 中央実験部,
⁷⁾ 名大・医・難治感染症部, ⁸⁾ 名市大・薬・衛生化学, ⁹⁾ 愛知医大・第二病理, ¹⁰⁾ 三菱化学生命研

腫瘍ウイルス学部

- 001 Tsurumi, T.: Epstein-Barr virus and Human Cancer ;

- Epstein - Barr Virus Replication Proteins. The 21 st International Cancer Symposium in Sapporo. 2001, (Sapporo, Japan)、[招待講演]
- 002 **Fujita, M. and Tsurumi, T.** : Intracellular organization of DNA replication initiation proteins in mammalian cells. The Meeting on Eukaryotic DNA Replication at The Salk Institute, 2000, (La Jolla, USA)、[口演]
- 003 **Fujita, M.** : Cell Cycle regulation of DNA replication initiation proteins in mammalian cells. Symposium on Molecular Network of G1-S Regulation in Eukaryotic Cells : From G1 Regulators to DNA Replication Machinery, 2001, (Tokyo, Japan)、[シンポジウム]
- 004 **葛島清隆** : EB ウイルス陽性胃癌に浸潤する T 細胞の機能解析. 第 3 回東海ウイルス感染症研究会、2000、(名古屋)、[口演]
- 005 **葛島清隆, 鶴見達也** : EBV 特異的 CD8⁺ T 細胞の定量とその臨床応用. 文部省がん特定 A 研究班 ”EB ウイルスとヒト発がん” 班会議、2000、(大阪)、[口演]
- 006 **葛島清隆** : EB ウイルス特異的 CD8⁺ T 細胞の定量とその臨床応用. 第 2 回北陸血液免疫懇話会、2000、(金沢)、[特別講演]
- 007 **葛島清隆, 鶴見達也** : Flow cytometry による EBV 特異的 CD8⁺ T 細胞定量法の樹立とその臨床応用. 第 4 回基盤の癌免疫研究会総会、2000、(札幌)、[口演]
- 008 **川田潤一¹⁾, 星野洋¹⁾, 原紳也¹⁾, 田中直子¹⁾, 杵山正浩¹⁾, 木村宏¹⁾, 森島恒雄²⁾, 葛島清隆, 鶴見達也, 関根暉彬³⁾** : 慢性活動性ウイルス感染症における活性化 T 細胞療法の検討. 第 36 回中部日本小児科学会、2000、(名古屋)、[口演]
- 009 **葛島清隆, 鶴見達也** : 骨髄移植後リンパ増殖症における EB ウイルス特異的 T 細胞のダイナミクス. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ミニシンポジウム]
- 010 **葛島清隆** : 細胞性免疫から見た EB ウイルス感染症. 第 48 回日本ウイルス学会、2000、(津)、[シンポジウム]
- 011 **葛島清隆, 木村宏¹⁾, 星野洋¹⁾, 森島恒雄²⁾, 鶴見達也** : 骨髄移植後リンパ増殖症における EBV 特異的 CD8⁺ T 細胞のダイナミクス. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[口演]
- 012 **星野洋¹⁾, 木村宏¹⁾, 葛島清隆, 田中直子¹⁾, 鶴見達也, 関根暉彬³⁾, 森島恒雄²⁾** : 慢性活動性 EBV 感染症における EBV 特異的 CD8⁺ T cell の解析. 第 48 回日本ウイルス学会、2000、(津)、[口演]
- 013 **葛島清隆** : Infectious mononucleosis における T リンパ球の諸性格. 第 42 回日本臨床血液学会総会、2000、(倉敷)、[シンポジウム]
- 014 **葛島清隆** : ウイルス感染症の管理と治療における細胞性免疫の役割. 第 42 回日本臨床ウイルス学会総会、2001、(名古屋)、[シンポジウム]
- 015 **藤田雅俊** : 哺乳類細胞 DNA 複製制御蛋白の核内ダイナミクス. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(福岡)、[ワークショップ]
- 016 **藤田雅俊, 鶴見達也, 小布施力史⁴⁾, 石見幸男⁵⁾** : ヒト細胞 DNA 複製制御蛋白のダイナミクス. 第 15 回 DNA 複製ワー

クショップ、2000、(京都)、[ワークショップ]

- 017 **中村普武, 斎藤敏子** : G 1 期核の試験管内 DNA 複製開始. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]
- 018 **清野透** : ヒトパピローマウイルス初期遺伝子による細胞の不死化と癌化. がん重点公開・合同シンポジウム、2000、(東京)、[シンポジウム]
- 019 **清野透** : ヒトパピローマウイルス (HPV) と子宮頸部癌. 12 回 B A C T シンポジウム、2000、(名古屋)、[シンポジウム]
- 020 **清野透** : ヒトパピローマウイルスによる発癌機構. 第 29 回日本婦人科腫瘍学会、2000、(名古屋)、[招請講演]
- 021 **清野透, 原田英樹⁶⁾, 篠田雅幸⁷⁾, 鶴見達也** : ヒト食道上皮細胞の不死化. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ミニシンポジウム]
- 022 **清野透** : 癌ウイルスの標的としての RB 経路と p53 経路. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 023 **清野透, 鶴見達也** : 16 型 HPV の E6 と E7 によるヒト上皮細胞の不死化. 第 48 回日本ウイルス学会、2000、(三重)、[口演]
- 024 **藤井健⁶⁾, 横山直明, 中村普武, 藤田雅俊, 鶴見達也** : Epstein - Barr virus ポリメラーゼ触媒サブユニットと BSLF1 / BBLF4 / BBLF2 / 3 複合体との物理的相互作用. 第 15 回 DNA 複製ワークショップ、2000、(京都)、[口演]
- 025 **藤井健⁶⁾, 横山直明, 藤田雅俊, 葛島清隆, 清野透, 鶴見達也** : BALF 5, BMRF 1 蛋白質による EBV DNA ポリメラーゼ複合体の形成. 第 48 回日本ウイルス学会、2000、(三重)、[口演]
- 026 **横山直明, 藤井健, 大塚健三, 藤田雅俊, 葛島清隆, 清野透, 鶴見達也** : ヒト分子シャペロンと EBV 複製開始領域結合蛋白質 BZLF1 との相互作用. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[示説]

¹⁾ 名古屋大学大学院医学研究科小児科学/成長発達医学, ²⁾ 名古屋大学医学部保健学科, ³⁾ リンフォテック, ⁴⁾ 奈良先端大, ⁵⁾ 三菱生命研, ⁶⁾ 研修生, ⁷⁾ 病院

分子病態学部

- 001 **Kannagi, R.** : Regulatory mechanism for expression of glycoconjugate ligands involved in selectin - mediated cell adhesion. (Invited Speaker). Japan - The Netherlands 400 Years Symposium on "Recent Advances in Glycobiology", Organized by M. Saito and J. F. G. Vliegthart, 2000, (Tokyo, Japan)、[シンポジウム]
- 002 **Kannagi, R.** : Carbohydrate ligands for selectins on leukocytes and endothelial cells : Roles of sulfation and sialylation. (Invited Speaker). Gordon Research Conferences 2000, "Glycolipid and Sphingolipid Biology", Chaired by Guido Tettamanti and Alfred H. Merrill, Il Ciocco, 2000, (Barga, Italy)、[シンポジウム]
- 003 **Ohmori, K.¹⁾, Mitsuoka, C. , Kanamori, A. , Adachi,**

- K.*²⁾, *Kameyama, A.*²⁾, *Takahashi, N.*²⁾, *Nonoyama, S.*²⁾ and *Kannagi, R.*: Novel anti-CD15 antibodies with distinct specificity towards Lewis X determinants carried by mucin core carbohydrates. The 7th. International Conference on Human Leukocyte Differentiation Antigens (Chairman D. Y. Mason), 2000, (Harrogate UK), [口演]
- 004 *Kannagi, R.*, *Mitsuoka, C.*, *Kanamori, A.*, *Uchimura, K.*³⁾, *Muramatsu, T.*³⁾, *Imai, T.*⁴⁾, *Yoshie, O.*⁴⁾, *Matsushima, K.*⁵⁾ and *Ohmori, K.*¹⁾: Expression and selectin-binding activity of sialyl 6-sulfo Lewis X determinant on human helper memory T-lymphocytes. The 7th. International Conference on Human Leukocyte Differentiation Antigens (Chairman D. Y. Mason), 2000, (Harrogate UK), [口演]
- 005 *Kannagi, R.*: Regulation of T-lymphocyte traffic by carbohydrate ligands for selectin. (Invited Speaker). International Symposium on Protein Traffic, Glycosylation, and Human Health, Chaired by J. Roth, M. Aebi, N. Taniguchi, T. Kawasaki and J. C. Paulson, 2001, (Interlaken, Switzerland), [シンポジウム]
- 006 *Ohmori, K.*¹⁾, *Tei, K.*⁶⁾, *Kumamoto, K.*⁷⁾, *Imai, T.*⁴⁾, *Yoshie, O.*⁴⁾, *Hasegawa, H.*⁶⁾, *Matsushima, K.*⁵⁾ and *Kannagi, R.*: Site-specific recruitment of human helper T cells by synergistic action of sulfated ligand for selectins and chemokines. The 5th Joint Conference of the American Association for Research and the Japanese Cancer Association "Molecular Biology and New Therapeutic Strategies: Cancer Research in the 21st Century" (Chaired by Cavenee, WK and Hirohashi, S), 2001, (Maui, Hawaii), [ポスター]
- 007 *Kumamoto, K.*⁷⁾, *Izawa, M.*, *Mitsuoka, C.*⁶⁾, *Takenoshita, S.* and *Kannagi, R.*: Significant alteration of carbohydrate 6-sulfotransferases in colon cancer and modulation by histone deacetylase inhibitors. The 5th Joint Conference of the American Association for Research and the Japanese Cancer Association "Molecular Biology and New Therapeutic Strategies: Cancer Research in the 21st Century" (Chaired by Cavenee, WK and Hirohashi, S), 2001, (Maui, Hawaii), [ポスター]
- 008 *Kannagi, R.*: Glycoconjugate ligands and regulation of selection-mediated cell adhesion (Plenary Lecture). The XVIth International Symposium on Glycoconjugates, Chaired by Vliegthart H, 2001, (Habue, Netherlands), [国際学会基調講演]
- 009 隈元謙介⁷⁾, 石田信宏⁹⁾, 川喜田正夫⁹⁾, 竹之下誠一¹⁰⁾, 神奈木玲児: 大腸癌における糖スクレオチド輸送体mRNAの発現の変動と糖鎖抗原への影響. 第11回日本消化器癌発生学会総会シンポジウム4, 「消化器癌の転移機構」(磨伊正義, 平川弘聖 座長), 2000, (米子), [シンポジウム]
- 010 神奈木玲児, 金森審子: セレクチンの硫酸化糖鎖リガンドとその生理的意義. 第21回日本糖質学会年会特別シンポジウム, 「硫酸化糖鎖研究の新展開—その多彩な構造と機能を探る」(木全弘治, 大平敦彦, 木曾真, 神奈木玲児 座長), 2000, (名古屋), [シンポジウム]
- 011 金森審子, 神奈木玲児: シアル酸の分子内修飾によるセレクチンのリガンド活性の調節機構. 第73回日本生化学会大会シンポジウム, 「糖鎖による細胞間コミュニケーション」(神奈木玲児, 村松喬 司会), 2000, (横浜), [シンポジウム]
- 012 鈴木明身¹¹⁾, 関根美知子¹¹⁾, 多屋長治¹¹⁾, 米川博道¹¹⁾, 神奈木玲児, 竹中優¹¹⁾, 今井圓裕¹¹⁾: *Gsl5*による近位尿管特異的糖鎖発現制御. 第73回日本生化学会大会シンポジウム, 「ポストゲノムにおけるグライコーム研究の重要性」(古川鋼一 司会), 2000, (横浜), [シンポジウム]
- 013 神奈木玲児, 金森審子, 隈元謙介⁷⁾, 平岩望¹⁾, 丁剛⁶⁾, 井澤峯子, 後藤嘉子: 造血細胞における接着分子セレクチンの糖鎖リガンドの発現調節機構. 第20回血液幹細胞シンポジウム(中畑龍俊 世話人, 帯刀益夫 座長), 2000, (東京), [シンポジウム]
- 014 隈元謙介⁷⁾, 井澤峯子, 光岡ちか子⁶⁾, 竹之下誠一¹⁰⁾, 神奈木玲児: 大腸癌における糖鎖6-硫酸基転移酵素の発現と生理的意義. 第9回がん転移研究会, 2000, (大阪), [口演]
- 015 斎藤理⁶⁾, 笠井保志³⁾, 秋山清次³⁾, 伊藤勝基³⁾, 中尾昭公³⁾, 井澤峯子, 神奈木玲児: 上部消化器癌および腫瘍内血管における6-硫酸化糖鎖抗原の発現とその意義. 第55回日本消化器外科学会総会, 2000, (宮崎), [ポスター]
- 016 金森審子, 井澤峯子, 光岡ちか子⁶⁾, 木村尚子, 神奈木玲児: シアル酸の環状化によるセレクチン結合活性の調節機構. 第21回日本糖質学会年会, 2000, (名古屋), [ポスター]
- 017 平岩望, 神奈木玲児: セレクチン・リガンド合成酵素 Fuc-T VII の HTLV-1 21-bp 類似転写調節部に結合する因子のクローニング及び解析. 第59回日本癌学会総会, 2000, (横浜), [ポスター]
- 018 金森審子, 後藤嘉子, 手塚克成¹²⁾, 玉谷卓也¹²⁾, 内村健治³⁾, 村松喬³⁾, 神奈木玲児: セレクチンのリガンドとしてのコアタンパク質要求性. 第59回日本癌学会総会, 2000, (横浜), [ポスター]
- 019 井澤峯子, 金森審子, 光岡ちか子⁶⁾, 田口修, 石田廣次¹³⁾, 中村栄男¹³⁾, 神奈木玲児: ヒトおよびラットにおけるリンパ節高血管内皮細静脈のL-セレクチンリガンドの分子種について. 第59回日本癌学会総会, 2000, (横浜), [ポスター]
- 020 隈元謙介⁷⁾, 井澤峯子, 光岡ちか子⁶⁾, 竹之下誠一¹⁰⁾, 神奈木玲児: セレクチンの糖鎖リガンドの硫酸化修飾とその生理的意義—大腸癌における検討. 第59回日本癌学会総会, 2000, (横浜), [ポスター]
- 021 大森勝之¹⁾, 光岡ちか子⁶⁾, 井澤峯子, 金森審子, 丁剛⁶⁾, 隈元謙介⁷⁾, 神奈木玲児: Tリンパ球の健常人体内における再循環を媒介するセレクチンリガンド—炎症性応答におけるリガンドとの機能分担について. 第59回日本癌学会総会, 2000, (横浜), [ポスター]
- 022 丁剛⁶⁾, 隈元謙介⁷⁾, 神奈木玲児, 田口修, 河田了¹⁶⁾, 中井茂¹⁶⁾, 久育男¹⁶⁾: 癌細胞の血管内皮細胞への接着におけるサイトカイン・ケモカインの関与—扁平上皮癌細胞における検討. 第59回日本癌学会総会, 2000, (横浜), [ポスター]

- 023 隈元謙介⁷⁾, 井澤峯子, 光岡ちか子⁹⁾, 竹之下誠一¹⁰⁾, 神奈木玲児: 大腸癌における糖鎖 6-硫酸基転移酵素の発現と生理的意義. 第 20 回日本分子腫瘍マーカー研究会、2000、(横浜)、[口演]
- 024 大森勝之¹⁾, 光岡ちか子⁹⁾, 井澤峯子, 金森審子, 今井俊夫⁴⁾, 義江 修⁴⁾, 長谷川均⁸⁾, 松島綱治⁵⁾, 神奈木玲児: 健康人体内における T リンパ球の routine homing に特異的にはたらくセレクトリンリガンド, シアリル 6-スルホ Lex. 第 30 回日本免疫学会総会・学術集会、2000、(仙台)、[ポスター]
- 025 田口修: scid マウスへのラット免疫系の移植. 第 30 回日本免疫学会総会、2000、(仙台)、[ワークショップ]
- 026 金森審子, 神田佳代子, 光岡ちか子⁹⁾, 濱田季之¹¹⁾, 廣田洋¹¹⁾, 大坪伸将¹⁴⁾, 石田秀治¹⁴⁾, 木曾真¹⁴⁾, 神奈木玲児: シアル酸の環状化によるセレクトリン結合活性の調節機構. 第 30 回日本免疫学会総会・学術集会ワークショップ, 「リンパ球ホーミング (ケモカイン, 接着分子)」(田中稔之, 長澤丘司 司会)、2000、(仙台)、[ワークショップ]
- 027 井澤峯子, 金森審子, 光岡ちか子⁹⁾, 田口修, 石田廣次¹³⁾, 中村栄男¹³⁾, 神奈木玲児: ラットにおけるリンパ節高血管内皮細静脈の L-セレクトリンリガンドーヒトとの相違. 第 30 回日本免疫学会総会・学術集会、2000、(仙台)、[ポスター]
- 028 平岩望, 神奈木玲児: Tax に発現誘導されるセレクトリン・リガンド合成酵素 Fuc-TVII の HTLV-1 21-bp 類似転写調節部に結合する因子のクローニング及び解析. 第 23 回日本日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 029 金森審子, 後藤嘉子, 小島直也¹⁵⁾, 内村健治³⁾, 村松喬³⁾, 神奈木玲児: 細胞接着分子 L-セレクトリンのコアタンパク質要求性について. 第 23 回日本日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 030 神奈木玲児: T リンパ球のホーミングと細胞接着分子〜セレクトリンとケモカインとの協同作用. 第 7 回京滋臨床血液研究会 (安田典正座長)、2000、(京都)、[特別講演]
- 031 神奈木玲児: リンパ球ホーミングにおけるセレクトリンの糖鎖リガンドの発現調節機構. 文部省科研費特定領域研究 A 「糖鎖リモデリングと細胞コミュニケーション」第 4 回公開シンポジウム、2001、(東京)、[シンポジウム]
- 032 神奈木玲児: がん細胞の糖鎖の基礎研究と腫瘍分子マーカー検査の開発. 第 58 回日本臨床検査医学会関東支部例会(戸谷誠之会長) 特別講演 (司会: 河野均也)、2001、(東京)、[特別講演]
- 033 福井布美代, 隈元謙介⁷⁾, 井澤峯子, 竹之下誠一¹⁰⁾, 神奈木玲児: ヒストンデアセチラーゼ阻害剤による大腸癌細胞株における 6-硫酸基含有糖鎖の変化. 第 10 回がん転移研究会, ミニシンポジウム 2, 「浸潤・転移のメカニズムと分子標的」(新津洋司郎, 上田龍三座長)、2001、(徳島)、[ミニシンポジウム]
- 034 金森審子, 小島直也¹⁵⁾, 神奈木玲児: Shear flow 下におけるセレクトリンと新規硫酸化糖鎖リガンドを介した細胞接着. 第 54 回日本細胞生物学会大会ワークショップ 20, 「マトリックス分子シグナルの多様性と細胞接着」(神奈木玲児, 木全弘治 司会)、2001、(岐阜)、[ワークショップ]
- 035 神奈木玲児: 細胞間の識別と接着に関与する複合糖質の構

造とその多様性. 第 6 回 FCCA 糖質若手フォーラム (オーガナイザー, 石田秀治, 西田芳弘, 北島健)、2001、(名古屋)、[特別講演]

- 036 隈元謙介⁷⁾, 石田信宏⁹⁾, 川喜田正夫⁹⁾, 竹之下誠一¹⁰⁾, 神奈木玲児: 糖スクレオチド輸送体 m RNA の発現の変動と糖鎖抗原への影響—大腸癌における検討. サージカルフォーラム「癌浸潤・転移のメカニズム」司会: 名倉弘一, 第 101 回日本外科学会総会、2001、(仙台)、[サージカルフォーラム]
- 037 丁剛⁶⁾, 隈元謙介⁷⁾, 神奈木玲児, 河田了¹⁶⁾, 中井茂¹⁶⁾, 久育男¹⁶⁾: 扁平上皮癌細胞におけるホメオスタティック・ケモカインの発現. 第 102 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会、2001、(福岡)、[口演]
- 038 隈元謙介⁷⁾, 石田信宏⁹⁾, 川喜田正夫⁹⁾, 竹之下誠一¹⁰⁾, 神奈木玲児: 大腸癌における UDP-ガラクトース輸送体 mRNA の発現の変動と糖鎖抗原合成への関与. 第 10 回がん転移研究会、2001、(徳島)、[ポスター]
- 039 丁剛⁶⁾, 隈元謙介⁷⁾, 金森審子, 河田了¹⁶⁾, 中井茂¹⁶⁾, 久育男¹⁶⁾, 神奈木玲児: 培養ヒト癌細胞株におけるホメオスタティック・ケモカインの発現. 第 10 回がん転移研究会、2001、(徳島)、[口演]
- 040 金森審子, 小島直也¹⁵⁾, 神奈木玲児: Shear flow 下におけるセレクトリンと硫酸化糖鎖リガンドを介した細胞接着. 第 6 回 FCCA 糖質若手フォーラム (オーガナイザー, 石田秀治, 西田芳弘, 北島健)、2001、(名古屋)、[口演]
- 041 内村健治³⁾, Fathy M. El-Fasakhany³⁾, 金森審子, 神奈木玲児, 村松喬³⁾: L-セレクトリンリガンド糖鎖の生合成に関わる GlcNAc-6-O 硫酸転移酵素群. 第 22 回日本糖質学会年会、2001、(静岡)、[口演]

¹⁾ 京都大, ²⁾ 日清製油医薬研, ³⁾ 名古屋大, ⁴⁾ 近畿大, ⁵⁾ 東京大, ⁶⁾ 研修生, ⁷⁾ リサーチレジデント, ⁸⁾ 愛媛大, ⁹⁾ 都立臨床研, ¹⁰⁾ 福島県立大, ¹¹⁾ 理研, ¹²⁾ JT 医薬研, ¹³⁾ 検査部, ¹⁴⁾ 岐阜大, ¹⁵⁾ 東海大, ¹⁶⁾ 京府医大

発がん制御研究部

- 001 森崎哲朗¹⁾, 広田亨¹⁾, 西山康之¹⁾, 丸本朋稔¹⁾, 飯田伸一¹⁾, 原敏浩¹⁾, 荒木令江¹⁾, 稲垣昌樹, 平岡武久¹⁾, 佐谷秀行¹⁾: Cdc2 による癌抑制遺伝子産物 h-warts の分裂期特異的リン酸化の生理学的意義. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 002 永田浩一, 富樫秀彰²⁾, 高岸美保子²⁾, 齋藤典子, 稲垣昌樹: Rho キナーゼ活性状態検出システムの開発とそれを用いた Rho/Rho キナーゼ活性化因子 KIAA0380 の同定. 第 59 回日本癌学会総会、2000、(横浜)、[ミニシンポジウム]
- 003 後藤英仁²⁾, 安井善弘, 稲垣昌樹: 細胞分裂の際のビメンチンフィラメントの均等分配に関与するプロテインキナーゼ. 第 73 回日本生化学会大会、2000、(横浜)、[シンポジウム]
- 004 永田浩一, 富樫秀彰²⁾, 高岸美保子²⁾, 齋藤典子, Mariette Driessens³⁾, Alan Hall³⁾, 稲垣昌樹: Rho 特異的活性化因

- 子 KIAA0380 とセマフォリン受容体 PlexinB1 との相互作用. 第 53 回日本細胞生物学会大会、2000、(福岡)、[一般演題]
- 005 富樫秀彰¹⁾, 永田浩一, 高岸美保子¹⁾, 齋藤典子, 稲垣昌樹: Rho 特異的活性化因子 KIAA0380 の性状解析. 第 53 回日本細胞生物学会大会、2000、(福岡)、[一般演題]
- 006 井澤一郎, 西澤美和子, 大宝和博¹⁾, 大塚健三⁴⁾, 伊奈田宏康, 稲垣昌樹: ヒト Mrj 蛋白質によるセラチン 8 / 18 フィラメント構築の制御. 第 53 回日本細胞生物学会、2000、(福岡)、[口演]
- 007 伊奈田宏康, 井澤一郎, 西澤美和子, 清野透⁵⁾, 高橋利忠⁶⁾, 稲垣昌樹: アポトーシス関連因子と細胞骨格蛋白質の結合とその生理学的意義. 第 53 回日本細胞生物学会、2000、(福岡)、[口演]
- 008 Yamaguchi, M. , Hayashi, Y. , Ohno, K. ¹²⁾, Kwon, E.-J. ¹²⁾, Yoshida, H. ¹²⁾, Hirose, F. , Inoue, Y. H. ⁷⁾ and Matsukage, A. : Transcriptional regulatory network for Drosophila. DNA replication - related genes. Eukaryotic DNA Replication Meeting、2000、(The Salk Institute for Biological Studies, La Jolla, USA)、[ポスター]
- 009 Yoshida, H. ¹²⁾, Inoue, Y. H. ⁷⁾, Hirose, F. , Sakaguchi, K. ¹⁸⁾, Matsukage, A. ¹¹⁾ and Yamaguchi, M. : Ectopic DREF expression induces S phase and apoptosis in Drosophila. wing imaginal discs. Eukaryotic DNA Replication Meeting、2000、(The Salk Institute for Biological Studies, La Jolla, USA)、[ポスター]
- 010 Kwon, E.-J. ¹²⁾ , Hirose, F. , Nishida, Y. ¹⁴⁾ and Yamaguchi, M. : Transcriptional regulation of the Drosophila transcription factor DREF. The International Workshop on Dynamics and Algorithms of Chromosome Function、2000、(Hiroshima)、[ポスター]
- 011 Hirose, F. , Ohshima, N. ¹⁴⁾ , Yoshida, H. ¹²⁾ and Yamaguchi, M. : Interaction between transcriptional regulatory factor, DREF and Mi - 2, a member of SWI / SNF family ATP - dependent helicase. The International Workshop on Dynamics and Algorithms of Chromosome Function、2000、(Hiroshima)、[ポスター]
- 012 山口政光, 井上喜博⁷⁾, 廣瀬富美子, 林裕子, 松影昭夫¹¹⁾: ヒト p53 とショウジョウバエ crumbs 遺伝子の遺伝学的相互作用. 日本癌学会第 59 回総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 013 廣瀬富美子, 山口政光, 田口修²⁰⁾, 西本義男¹⁰⁾, 松影昭夫¹¹⁾: 転写因子 DREF によるヒト CMV の極初期遺伝子 US3 の発現制御. 日本癌学会第 59 回総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 014 林裕子, 山口政光, 西本義男¹⁰⁾, 松影昭夫¹¹⁾: ショウジョウバエ PCNA プロモーターの新たな転写制御配列に結合する因子の one - hybrid 法による検索. 日本癌学会第 59 回総会、2000、(横浜)、[ポスター]
- 015 山口政光, 林裕子, 大野勝人¹²⁾, 吉田英樹¹²⁾, 権恩貞¹²⁾, 廣瀬富美子, 井上喜博⁷⁾, 松影昭夫¹¹⁾: ショウジョウバエ DNA 複製関連遺伝子の転写制御ネットワーク. 第 53 回日本細胞生物学会大会、2000、(福岡)、[口演]
- 016 松影昭夫¹¹⁾, 田口修¹⁴⁾, 西本義男⁴⁾, 山口政光, 井上真紀子⁵⁾, 小池明子⁵⁾, 廣瀬富美子: ヒト転写因子 hDREF の機能と

- 局在の解析. 第 53 回日本細胞生物学会大会、2000、(福岡)、[口演]
- 017 山口政光, 吉田英樹¹²⁾, 廣瀬富美子, 井上喜博⁷⁾, 林裕子, 山岸正裕¹⁷⁾, 坂口謙吾¹⁸⁾, 松影昭夫¹¹⁾: A genetic screen for modifiers of BEAF32A in Drosophila. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 018 吉田英樹¹²⁾, 井上喜博⁷⁾, 廣瀬富美子, 坂口謙吾¹⁹⁾, 松影昭夫¹¹⁾, 山口政光: ショウジョウバエの翅成虫原基における異所的な DREF の発現は S 期とアポトーシスを誘導する. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 019 廣瀬富美子, 大島信子²²⁾, 吉田英樹¹²⁾, 松影昭夫¹¹⁾, 山口政光: 転写因子 DREF と SWI / SNF family ATP 依存性 helicase Mi - 2 との相互作用. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 020 権恩貞¹²⁾, 廣瀬富美子, 西田育巧¹⁴⁾, 山口政光: ショウジョウバエ転写因子 DREF 遺伝子の転写制御. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 021 崎本一平¹⁸⁾, 黒田和史²³⁾, 大重真彦¹⁸⁾, 八木尚子¹⁸⁾, 高田慶一¹⁸⁾, 吉田英樹¹²⁾, 青柳憲和¹⁸⁾, 廣瀬富美子, 井上喜博⁷⁾, 山口政光, 松影昭夫, 坂口謙吾¹⁸⁾: キイロショウジョウバエ発生過程における DNA ポリメラーゼ α の発現分布. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 022 崎本一平¹⁸⁾, 八木尚子²³⁾, 大重真彦¹⁸⁾, 高田慶一¹⁸⁾, 吉田英樹¹²⁾, 青柳憲和¹⁸⁾, 山口政光, 井上喜博⁷⁾, 廣瀬富美子, 黒田和史¹³⁾, 松影昭夫¹¹⁾, 坂口謙吾¹⁸⁾: キイロショウジョウバエ発生過程における DNA ポリメラーゼ δ の発現分布. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 023 大重真彦¹⁸⁾, 崎本一平¹⁸⁾, 高田慶一¹⁸⁾, 八木尚子¹⁸⁾, 吉田英樹¹²⁾, 廣瀬富美子, 青柳憲和¹⁸⁾, 井上喜博¹⁾, 山口政光, 黒田和史²³⁾, 松影昭夫¹¹⁾, 坂口謙吾¹⁸⁾: キイロショウジョウバエ発生過程における DNA ポリメラーゼ ϵ の発現分布. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 024 高田慶一¹⁸⁾, 大重真彦¹⁸⁾, 吉田英樹¹²⁾, 崎本一平¹⁸⁾, 八木尚子¹⁸⁾, 廣瀬富美子, 山口政光, 黒田和史²³⁾, 松影昭夫¹¹⁾, 坂口謙吾¹⁸⁾: キイロショウジョウバエの Mitochondrial transcription factor A(D - mtTFA). 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 025 大野勝人¹²⁾, 加藤規子²⁴⁾, 加藤順也²⁴⁾, 田中利明²⁴⁾, 田口修²⁰⁾, 西田育巧¹⁴⁾, 松影昭夫¹¹⁾, 山口政光: ショウジョウバエ dMLF 遺伝子の関与する新規アポトーシス制御機構の解析. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]
- 026 井上喜博⁷⁾, Endre Mathe⁸⁾, David M. Glover⁸⁾, 山本雅敏⁷⁾, 松影昭夫¹¹⁾, 山口政光: ショウジョウバエの微小管結合タンパク Orbit の配偶子形成過程における機能. 第 23 回日本分子生物学会年会、2000、(神戸)、[ポスター]

¹⁾ 熊本大医, ²⁾ 研修生, ³⁾ ロンドン大学, ⁴⁾ 中部大学, ⁵⁾ 腫瘍ウイルス, ⁶⁾ 所長, ⁷⁾ 京都工繊大, ⁸⁾ ケンブリッジ大, ⁹⁾ 遺伝研, ¹⁰⁾ 中央実験部, ¹¹⁾ 日本女子大, ¹²⁾ 研修生, ¹³⁾ 釜山大, ¹⁴⁾ 名大, ¹⁵⁾ 理研, ¹⁶⁾ 阪大, ¹⁷⁾ 産総研, ¹⁸⁾ 東京理大, ¹⁹⁾ ハーバード大学, ²⁰⁾ 分子病態学部, ²¹⁾ 医学生物学研, ²²⁾ アルバイト, ²³⁾ 三菱生命研, ²⁴⁾ 奈良先端大,

中央実験部

- 001 組本博司, 西沢きみ子¹⁾, 西本義男, 浜島信之²⁾, 松尾恵太郎^{2) 3)}, 原田英樹⁴⁾, 嶋田裕⁴⁾, 波戸岡俊三⁵⁾, 篠田雅幸⁵⁾, 今村正之⁴⁾, 石崎寛治: 食道癌における L-myc 多型と罹患, 予後および飲酒, 喫煙との関連. 第 59 回日本癌学会総会, 2000、(横浜)、[示説]
- 002 原田英樹⁴⁾, 嶋田裕⁴⁾, 内田信裕, 篠田雅幸⁵⁾, 今村正之⁴⁾, 石崎寛治: 食道扁平上皮癌における 13q 12-13 領域の新規候補癌抑制遺伝子 AS3 遺伝子の解析. 第 59 回日本癌学会総会, 2000、(横浜)、[示説]
- 003 石崎寛治, 清野透⁶⁾, 深見博子, 野田朝男⁷⁾, 江島洋介⁸⁾: 正常および放射線高感受性遺伝病細胞の hTERT 遺伝子導入による不死化. 第 59 回日本癌学会総会, 2000、(横浜)、[示説]
- 004 組本博司, 浜島信之²⁾, 松尾恵太郎²⁾³⁾, 内田信裕, 原田英樹⁴⁾, 嶋田裕⁴⁾, 篠田雅幸⁵⁾, 石崎寛治: 食道癌における L-myc 遺伝子の多型と飲酒, 喫煙との関連. 第 239 回日本分子生物学会年会, 2000、(神戸)、[示説]
- 005 内田信裕, 組本博司, 西本義男, 深見博子, 石崎寛治: DT 40 細胞におけるヒト exonuclease 1 ホモログ cDNA の単離. 第 43 回日本放射線影響学会大会, 2000、(東京)、[口演]
- 006 石崎寛治, 清野透⁶⁾, 野田朝男⁷⁾, 江島洋介⁸⁾: hTERT 遺伝子導入不死化ヒト細胞の放射線影響研究への利用. 第 43 回日本放射線影響学会大会, 2000、(東京)、[口演]
- 007 組本博司, 浜島信之²⁾, 松尾恵太郎²⁾³⁾, 内田信裕, 篠田雅幸⁵⁾, 石崎寛治: 食道がんの飲酒に対する発がん感受性と CYP 2E1 遺伝子の多型の関係. 第 2 回日本がん分子疫学研究会, 2001、(東京)、[口演]
- 008 *H. Kumimoto, N. Hamajima²⁾, Y. Nishimoto, K. Matsuo^{2) 3)}, Y. Shimada⁴⁾, M. Shinoda⁵⁾ and K. Ishizaki*: Risk for esophageal cancer by smoking and drinking is influenced by the L-myc genotype. 第 5 回日本癌学会・米国癌学会合同会議, 2001、(ハワイ)、[示説]

¹⁾ 県環境調査センター, ²⁾ 疫学予防部, ³⁾ 名古屋大, ⁴⁾ 京都大,

⁵⁾ 胸部外科, ⁶⁾ 腫瘍ウイルス, ⁷⁾ 神戸大, ⁸⁾ 広島保健福祉大